

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択 老人看護CNS必修
担当教員			
◎小長谷百絵、原等子、東條紀子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 90時間	
	【担当教員】 【氏名】 ◎小長谷百絵 原 等子 東條 紀子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上	【研究室】 213 303 308
【メールアドレス】 konagaya@niigata-cn.ac.jp naohara@niigata-cn.ac.jp toujou@niigata-cn.ac.jp			
【本学の科目区分】 専門分野			
【D P 1】 <input type="radio"/> 【D P 2】 <input checked="" type="radio"/> 【D P 3】 <input type="radio"/> 【D P 4】 <input type="radio"/> 【D P 5】 <input type="radio"/> 【D P 6】 <input checked="" type="radio"/>			

到達目標	1. 慢性の疾患・障害や認知症・高次脳機能障害等により医療施設での入院治療を経て、依然として複雑で対応の難しい問題や生活上の課題を有しながら継続的して在宅での療養支援が必要な高齢者とその家族を対象とした看護を実践することができる。 2. 高齢者と家族のニーズと現状のギャップに応じた解決や状態改善をはかるために、在宅看護に関連する諸理論を適用することができる。 3. 個別性を重視した包括的なアセスメントに基づき看護を実践することができる。 4. 在宅で生活する高齢者の権利擁護に努め、安全・安心できる生活環境やケア体制、介護サポートづくりを行うことができる。 5. 専門看護師としての能力について述べることができる。
------	---

授業概要	慢性の疾患・障害や認知症・高次脳機能障害等により入院治療を経た高齢利用者が多く占める訪問看護ステーションにおいて訪問看護を実習する。また、在宅高齢者看護に関連する課題を持って実習に臨み、看護体験を踏まえた上で課題レポートを作成する。指導教員並びに在宅高齢者看護に経験豊富な看護管理者、臨床指導者のもとに実習を行う。 なお、高度看護実践のケースレポート（看護過程1例）と課題レポートを各1部作成する。
------	--

授業計画	1	授業内容 授業形態： 学修課題：高度看護実践 学修内容：慢性の疾患・障害や認知症・高次脳機能障害を有する在宅療養高齢者に対して、老年看護実践の理論をふまえ、身体や精神、社会面から包括的専門的にアセスメントを行い、家族やサポートシステム、介護保険・医療保険サービス等の活用を考慮したケアプランを立案し、問題解決のための看護実践、評価を行う。 <方法・内容> ・受け持ち事例に対して訪問看護を行い、高齢者や家族に生じている問題やニーズを診断し、解決すべきケアプランを作成する。 ・ケアプランをスタッフと共有し、問題解決を早期にはかる専門性の高い看護実践を行う。 ・看護師だけでなく、介護支援専門員などの多職種と連携を行い、看護師としての意見を明確にし、課題解決のための検討を行う。 ・アウトカム評価を行い、ケアの評価を的確に行う。 ・受持ち事例だけでなく、他の事例にも目を向け、積極的に訪問看護の実践を行う 備考：
	2	授業内容 授業形態： 学修課題：課題学修 学修内容：在宅における高齢者看護に関連する課題をもって実習に臨み、看護体験や課題にそつた情報収集により課題レポートを作成する。また、その成果をスタッフに報告する 備考：

事前・事後学習	事前学修：各自の看護実践上の課題や関心を明確にする。 事後学修：看護実践を振り返り新たな課題に対して文献を精読する。
---------	---

評価方法、評価基準	到達目標1～5に対して実習事前準備、実習の出席状況、実習目標達成度の自己評価、実習指導者と指導教員による評価、実習レポートの評価を総合して行う。 実習事前準備：20%、実習参加状況：30%、実習ならびに課題レポート：50%により評価する。
-----------	--

テキスト	最新の論文や文献を使用するため現時点では指定せず授業内で案内する。
------	-----------------------------------

参考図書・資料等	・既修の科目における参考文献や資料 ・実習の中で隨時紹介する。
----------	------------------------------------

受講、課題、資料配布等のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・実習要項を事前に配布し、説明する。実習の目的・目標を十分理解すること、また、実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制などについては、ホームページなどを活用して情報を入手し理解しておくこと。 ・実習の目的・目標達成のための、具体的な実習計画書（課題、受持つ対象像、日程と具体的活動など）を事前に作成し、教員・臨地指導者と調整すること。
教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・CNS に求められる 6 つの役割について十分復習して理解を深めておくとともに、CNS を志向する学生としての基本的なマナーを守り、看護職のモデル的役割を發揮してほしいと思います。また、実習Ⅲの目的・目標を十分理解し、その達成に向けて臨地指導者とより良い関係のもと、調整しつつ効果的な実習を展開することを期待しています。
オフィスアワー	随時（メール調整）